

事業シート(平成29年度決算)

41_消防.xlsx_1

事業名	81100 消防本部運営事業費			予算	会計	1	一般会計	総合計画	基本分野	5	基盤・安全	市長公約	
					款	8	消防費		個別分野	9	消防		
					項	1	消防費		施策概要	2	消防体制の充実		
					目	1	常備消防費		根拠計画		消防計画		
担当課	消防本部	消防総務課	内線	2119									

1.事業の目的・概要(Plan)

目的	・市民生活の安全を確保するため、消防体制の充実や関係機関との連携を強化する。 ・119番通報に対する迅速・的確な対応を行い、市民の生活と生命・財産を守る。	概要	・消防本部の運営、関係機関との連絡・調整、大野郡白川村の消防事務の受託 ・高機能消防指令システムの保守点検
----	--	----	--

総合計画等 主な指標	H28実績	H29実績	H31目標
「消防・救急体制が整っている」と感じている市民の割合	85.7%	83.9%	↗

2.事業の実施結果等(Do)

(千円)

歳出事業費 (職員人件費を除く)		H28		H29		
		最終予算	決算 (a)	当初予算 (c)	最終予算	決算 (b)
		72,999	70,941	114,584	114,573	111,836
						増減 (b)-(a)
						40,895
特定財源	国費 (主要国首脳会議開催消防・救急体制整備費10/10)	0	233	0	0	△ 233
	県費 (県移譲事務交付金)	518	761	732	732	386
	その他(消防手数料、白川村受託事業収入、高速救急業務支弁金、飛騨高山ふるさと基金繰入金等)	11,701	12,343	15,581	15,581	3,579
一般財源		60,780	57,604	98,271	98,260	37,163
個票枝番	主な事業内容					
	消防本部の運営に関する事業	72,999	70,941	113,984	113,984	40,597
	AED(自動体外式除細動器)の屋外設置					
◎ 1	緊急通報の多言語対応化(消防多言語通訳コールセンター)			600	589	298

※下段は主な事業内容を抜き出したものであり、計が歳出事業費に一致しない場合があります。

4.平成30年度予算編成(Action)

(千円)

H30		実施計画額	58,400
要求額	財務部査定額	市長査定額(d)	増減 (d)-(c)
119,749	129,813	129,813	15,229
0	0	0	0
738	1,133	1,133	401
13,965	18,068	18,068	2,487
105,046	110,612	110,612	12,341
査定額	説明		
116,493			
13,000			
320			

※入札に影響するため公開に適さないなど、記載省略(※)する場合があります。

3.平成28年度事業実績、評価等(Check)

事業実績	・伊勢志摩サミットにおける消防特別警戒体制業務遂行のため、消防職員2名を現地へ派遣 ・消防署等施設及び通信指令装置等の維持管理 ・防災ヘリコプターの飛騨地域常駐化に向けた県への継続要望 ・火災出動 27件、救急出動 3,985件、救助出動 56件(平成28年中)
評価等	・施設・整備の適正な維持管理、関係機関との連携強化により、消防体制の充実が図られた。 ・高機能消防指令システムの効率的な運用により、119番通報に対する迅速・的確な対応が図られた。
次年度以降の考え方(担当課)	☒ 維持・改善 ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 廃止検討 ☐ H28完了 ☐ H29完了予定 ・高機能消防指令システムの適切な保守管理 ・救急・消防隊の適切な運用により、市民の安全安心を確保する。

5.平成29年度事業実績、評価等(Check)

事業実績	・消防署等施設及び通信指令装置等の保守点検、維持管理を行った。 ・緊急通報の多言語対応を行った。 災害対応14件(延べ37回) ・防災ヘリコプターの飛騨地域常駐化に向けた県への継続要望を行った。 ・火災出動 26件、救急出動 4,111件、救助出動 44件(平成29年中)
評価等	・施設の適正な維持管理、関係機関との連携強化により、消防体制の充実が図られた。 ・高機能消防指令システムの効率的な運用及び多言語対応により、119番通報に対する迅速・的確な対応が図られた。
次年度以降の考え方(担当課)	☒ 維持・改善 ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 廃止検討 ☐ H29完了 ☐ H30完了予定 ・高機能消防指令システムの適切な保守管理 ・救急・消防隊の適切な運用により、市民の安全安心を確保する。 ・AEDを屋外に適切に設置する。

施策の実施方針	
担当課 予算要求 ポイント	・高機能消防指令システムによる消防体制の充実
財務部 査定の 考え方	・積算内容を精査
市長査定 の考え方	・財務部査定のとおり

41_消防.xlsx_1

81100

主要事業個票(平成29年度決算)

事業名	81100 消防本部運営事業費	区分	☒ H29新規	☐ H30新規	予算	会計	1	一般会計	担当課	消防本部 消防総務課
			☐ H29拡充	☐ H30拡充		款	8	消防費		
枝番・内容	1 緊急通報の多言語対応化(消防多言語通訳コールセンター)		☐ その他重要事業			項	1	消防費	内線	2119
			☐			目	1	常備消防費	作成年月	H30.8

事業の目的・概要(Plan)

目的	・高山市及び大野郡白川村に居住する外国人や外国人観光客など、日本語を介したコミュニケーションが困難な方に対して、高山市消防本部が行う消防活動を円滑にするため、電話通訳サービスをを用いた多言語通訳体制を確保し、安心・安全なまちづくりに寄与する。	概要	・外国人観光客からの119番通報や外国人を含む災害に対し、多言語通訳を実施する。
----	---	----	--

[参考] H28決算(Do・Check) H29.8時点 (千円)

予算額	当初	0
	繰越	
	補正等	
	最終	0
決算額		0
対前年度増減額(決算)		0

[参考] H29当初予算(Action) H29.3時点 (千円)

予算額	当初	600
主な経費	119番通報等多言語通訳業務委託	
対前年度増減額(当初予算)		600

※入札に影響するため公開に適さないなど、記載省略(※)する場合あり

H29決算(Do・Check) H30.8時点 (千円)

予算額	当初	600
	繰越	
	補正等	△ 11
	最終	589
決算額		298
対前年度増減額(決算)		298

H30当初予算(Action) H30.5時点 (千円)

予算額	当初	320
主な経費	119番通報等多言語通訳業務委託	
対前年度増減額(当初予算)		△ 280

※入札に影響するため公開に適さないなど、記載省略(※)する場合あり

事業実績、評価等		
次年度以降の考え方(担当課)		☐ 維持・改善 ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 廃止検討 ☐ H28完了 ☐ H29完了予定

事業内容、スケジュール	
[事業内容] ・火災、救急、救助、火災原因調査、予防査察等、通訳業務の委託 24時間365日(英語、中国語、韓国語、ポルトガル語、スペイン語)	
[スケジュール] ・4月～3月 119番通報等多言語通訳業務委託	

事業実績、評価等	
[事業実績] ・災害対応 14件、(延べ37回) 利用者:通信指令室 4件 現場救急隊 10件 言語:英語 10件、韓国語 3件、中国語 1件	
[評価等] ・主な利用実績は、救急業務での利用であった。 ・通訳業務を委託し、傷病者の訴えを的確に聞き、早期の応急処置、搬送に結びつけ外国人へのサービスが向上した。	
次年度以降の考え方(担当課)	☒ 維持・改善 ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 廃止検討 ☐ H29完了 ☐ H30完了予定 ・電話通訳サービスを用いた多言語通訳体制を確保し、安心・安全なまちづくりに寄与することを目的とし継続する。

事業内容、スケジュール	
[事業内容] ・火災、救急、救助、火災原因調査、予防査察等、通訳業務の委託 24時間365日(英語、中国語、韓国語、ポルトガル語、スペイン語)	
[スケジュール] ・4月～3月 119番通報等多言語通訳業務委託	

事業シート(平成29年度決算)

41_消防.xlsx_3

事業名	81110 消防署運営事業費	予算	会計	1	一般会計	総合計画	基本分野	5	基盤・安全	市長公約	
			款	8	消防費		個別分野	9	消防		
			項	1	消防費		施策概要	2	消防体制の充実		
			目	1	常備消防費		根拠計画		消防計画		
担当課	消防本部 消防総務課	内線	2119								

1.事業の目的・概要(Plan)

目的	・地域の防災拠点である消防施設の災害時に即応できる体制を常に整え、機械器具等の適正な維持管理を行う。	概要	・消防庁舎(本署1、分署3、出張所4)や機械器具の維持管理(白川出張所は白川村から消防事務を受託)
----	--	----	---

総合計画等 主な指標	H28実績	H29実績	H31目標

2.事業の実施結果等(Do)

(千円)

歳出事業費 (職員人件費を除く)		H28		H29		
		最終予算	決算 (a)	当初予算 (c)	最終予算	決算 (b)
		28,893	24,129	27,253	27,264	24,717
特定財源	国費 ()					
	県費 ()					
	その他(白川村受託事業収入・消防施設等使用料)	2,176	2,156	2,057	2,057	2,011
一般財源		26,717	21,973	25,196	25,207	22,706
個票枝番	主な事業内容					
	消防署維持管理に関する事業	28,893	24,129	27,253	27,264	24,717

※下段は主な事業内容を抜き出したものであり、計が歳出事業費に一致しない場合があります。

4.平成30年度予算編成(Action)

(千円)

H30		実施計画額	29,300
要求額	財務部査定額	市長査定額(d)	増減 (d)-(c)
28,464	27,223	27,223	△ 30
2,033	2,059	2,059	2
26,431	25,164	25,164	△ 32
査定額	説明		
27,223			

※入札に影響するため公開に適さないなど、記載省略(※)する場合があります。

3.平成28年度事業実績、評価等(Check)

事業実績	・消防庁舎(本署1、分署3、出張所4)や機械器具の維持管理の実施 ・各署所の施設修繕(ボイラー室真空ポンプ、非常用発電機電池交換、水道設備漏水等)
評価等	・施設・整備の適正な維持管理により、消防体制の充実が図られた。
次年度以降の考え方(担当課)	☒ 維持・改善 ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 廃止検討 ☐ H28完了 ☐ H29完了予定 ・各署所における施設や設備の不具合を早期に発見し、効率的な運用等を進め、修繕費等の抑制に繋げる。

5.平成29年度事業実績、評価等(Check)

事業実績	・消防庁舎(本署1、分署3、出張所4)や機械器具の維持管理を実施した。 ・各署所の施設修繕を行った。(空調水漏れ・乾燥室乾燥機・電源用避雷器交換等)
評価等	・施設・整備の適正な維持管理により、消防体制の充実が図られた。
次年度以降の考え方(担当課)	☒ 維持・改善 ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 廃止検討 ☐ H29完了 ☐ H30完了予定 ・各署所における施設や設備の不具合を早期に発見し、効率的な運用等を進め、修繕費等の抑制に繋げる。

施策の実施方針	
担当課 予算要求 ポイント	・消防署(分署・出張所を含む)の維持管理費

財務部 査定の 考え方	・積算内容を精査
市長査定 の考え方	・財務部査定のとおり

41_消防.xlsx_4

総合計画等 主な指標	H28実績	H29実績	H31目標
高齢者宅防火訪問件数(数値はH27年度からの累計)	1,619件	2,550件	4,300件

目的	・市民生活の安全を守るため、火災予防対策や啓発活動の実施等により、防火意識の高揚や防火知識の普及を図る。	概要	・防火対象物や危険物施設等の立入検査や講習会等を実施する。 ・火災予防運動や住宅防火対策等の啓発活動を実施する。
----	--	----	---

(千円)

4.平成30年度予算編成(Action)

H30		実施計画額	1,000
要求額	財務部査定額	市長査定額(d)	増減 (d)-(c)
1,425	1,030	1,030	0
1,425	1,030	1,030	0
0	0	0	0
査定額	説明		
1,030			

※入札に影響するため公開に適さないなど、記載省略(※)する場合があります。

事業実績	・立入検査計画(年度)の作成・実施:違反は正、未把握防火対象物の実態把握・立入検査・違反は正を行った。(目標値800件、実施968件、特定防火対象物の重大違反8件中5件は正) ・防火管理講習の企画運営・受講促進を行った。(甲種防火管理新規講習:開催2回、受講121名、甲種防火管理再講習:開催1回、受講18名) ・春季・秋季火災予防運動、文化財防火デー、危険物安全週間等実施計画の作成・実施を行った。(保育園児、人力車等協力による火災予防啓発活動3回、文化財防火デー訓練10件、対象物合同訓練18件、危険物施設立入検査219施設) ・住宅用火災警報器設置対策実施計画に基づく広報・個別訪問等を実施した。(住宅用火災警報器設置率:5.3%、個別訪問指導:445件)
評価等	・立入検査は目標値を上回っているが、未是正の重大違反についてはフォロー調査、指導を強化する等、更なる指導が必要である。 ・防火管理講習は目標値以上の受講者があり、防火管理者未選任違反の是正が図られた。 ・各予防運動等における実施計画の内容は達成できた。 ・住宅用火災警報器の設置状況は、全国の設置率(81.7%)と比べ高いが、設置後の適切な維持管理が必要であり、今後とも設置及び維持管理の啓発を図っていく必要がある。
次年度以降の考え方(担当課)	・立入検査、各予防運動及び防火管理講習は目標値を上回っており次年度以降も継続する。 ・複様多様化する火災の原因調査に対応するため、調査員の知識・技術の向上を図る。 ・住宅用火災警報器は全国の設置率(81.7%)と比べ高いが、設置後の適切な維持管理が必要であり、今後とも設置及び維持管理の啓発を継続し更なる防火意識の高揚を図る。 ☒ 維持・改善 ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 廃止検討 ☐ H29完了 ☐ H30完了予定

施策の 実施方針	
担当課 予算要求 ポイント	・火災原因調査及び立入査察(違反是正)に対する知識・技術の向上を図る経費の計上 ・火災予防の啓発等に要する経費を計上
財務部 査定の 考え方	・積算内容を精査
市長査定 の考え方	・財務部査定のとおり

41_消防.xlsx_5

市長公約	
------	--

総合計画等 主な指標	H28実績	H29実績	H31目標
------------	-------	-------	-------

関係機関との合同訓練回数(年間)	48回	66回	50回

(千円)

4.平成30年度予算編成(Action) (千円)

(千円)

H30		実施計画額	16,200
要求額	財務部査定額	市長査定額(d)	増減 (d)-(c)
16,814	15,170	15,170	260
1,496	820	820	0
15,318	14,350	14,350	260
査定額	説明		
15,170	消防車両維持管理等		

※入札に影響するため公開に適さないなど、記載省略(※)する場合があります。

事業実績	・空気呼吸器用ポンプについては、19本の耐圧検査を実施し、必要な空気ポンプ数を確保した。 ・消防車両21台の車検整備等を実施し、安全な車両運行及び火災現場等における確実な防護活動を実施した。 ・緊急消防援助隊岐阜県大隊訓練、警察及び県警山岳警備隊、防災航空隊等との訓練を実施し、連携強化を図った。	
評価等	・保有する車両、資器材の維持管理、不具合の早期発見により、大規模な修繕費等の発生を抑制できた。 ・近隣消防本部や警察、緊急消防援助隊等との訓練実施により、現場活動の連携強化と現場対応力の強化を図ることができた。	
次年度以降の考え方 (担当課)	・消防ポンプ車、救急車及びその他の車両の老朽化による突発的な修繕への対応が増加する傾向にあり、不具合の早期発見に努め災害時に確実に運用できるよう整備する。 ・発生が危惧される特殊災害等に対応できるよう、隊員のスキルアップを図り、小隊活動レベルの向上と現場対応力の更なる強化を図る。	☒ 維持・改善 ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 廃止検討 ☐ H29完了 ☐ H30完了予定

財務部 査定の 考え方	・積算内容を精査
市長査定 の考え方	・財務部査定のとおり

事業シート(平成29年度決算)

41_消防.xlsx_6

事業名	81140 救急事業費			予算	会計	1	一般会計	総合計画	基本分野	5	基盤・安全	市長公約	
					款	8	消防費		個別分野	9	消防		
					項	1	消防費		施策概要	4	救急体制の充実		
					目	1	常備消防費		根拠計画		消防計画		
担当課	高山消防署 救急課	内線	2117										

1.事業の目的・概要(Plan)

目的	・救急業務を円滑に遂行すると共に、救急救命士を全ての救急隊に配置し、救急体制の充実強化を図る。 ・救命講習を通じて応急手当の重要性を理解してもらい、応急手当の実施率の向上を図る。	概要	・救急救命士の有資格者の養成及び病院実習を実施する。 ・市民に対して広く救命講習の受講の場を提供する。
----	--	----	--

総合計画等 主な指標	H28実績	H29実績	H31目標
救命講習修了証所有者数	6,135人	6,860人	6,500人

2.事業の実施結果等(Do)

(千円)

歳出事業費 (職員人件費を除く)		H28		H29		
		最終予算	決算 (a)	当初予算 (c)	最終予算	決算 (b)
		8,834	7,894	7,787	7,787	7,485
						△ 409
特定財源	国費 ()					
	県費 ()					
	その他(白川村受託事業収入、高速救急業務支弁金)	8,834	7,894	7,787	7,787	7,485
						△ 409
一般財源		0	0	0	0	0
個票枝番	主な事業内容					
	救急業務に関する事業	8,834	7,894	7,787	7,787	7,485
	気管挿管救命士の育成					

※下段は主な事業内容を抜き出したものであり、計が歳出事業費に一致しない場合があります。

4.平成30年度予算編成(Action)

(千円)

H30		実施計画額	7,700
要求額	財務部査定額	市長査定額(d)	増減 (d)-(c)
10,915	8,300	8,300	513
10,915	8,300	8,300	513
0	0	0	0
査定額	説明		
7,970	医薬材料費等		
330	1名		

※入札に影響するため公開に適さないなど、記載省略(※)する場合があります。

3.平成28年度事業実績、評価等(Check)

事業実績	・救急救命士の再教育を実施した。 ・救急現場で実働が可能な新任救急救命士3名を養成した。 ・薬剤認定救命士2名を養成した。 ・気管挿管認定救命士1名を養成した。 ・新処置認定救命士3名を養成した。 ・公募による普通救命講習を3回開催、事業所等各種団体からの要請による救命講習を299回開催し、合計5,365人が救命講習を受講した。
評価等	・救急救命士の再教育(病院実習を含む生涯教育)の充実と薬剤認定救命士、気管挿管認定救命士、新処置認定救命士を育成する必要がある。 ・救命講習を広く市民が受講できるよう開催する必要がある。
次年度以降の考え方(担当課)	☒ 維持・改善 ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 廃止検討 ☐ H28完了 ☐ H29完了予定

5.平成29年度事業実績、評価等(Check)

事業実績	・救急救命士の再教育を実施した。 ・薬剤認定救命士1名を養成した。 ・新処置認定救命士4名を養成した。 ・指導救命士1名を養成した。 ・公募による普通救命講習を3回開催、事業所等各種団体からの要請による救命講習を358回開催し、合計5,207人が救命講習を受講した。
評価等	・救急救命士の再教育(病院実習を含む生涯教育)の充実と薬剤認定救命士、新処置認定救命士の養成を継続しながら、気管挿管認定救命士についても、養成する必要がある。 ・救命講習を広く市民が受講できるよう開催する必要がある。
次年度以降の考え方(担当課)	☒ 維持・改善 ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 廃止検討 ☐ H29完了 ☐ H30完了予定

施策の実施方針	・救急救命の推進
担当課 予算要求 ポイント	・救急救命士の再教育履修、必修のポイントの取得(病院実習、研修) ・救急救命士の認定資格の取得(病院実習、研修) ・医療機器消耗品(除細動バッテリー、ケーブル)の計画的更新

財務部 査定の 考え方	・積算内容を精査
市長査定 の考え方	・財務部査定のとおり

41_消防.xlsx_6

81140

事業シート(平成29年度決算)

41_消防.xlsx_7

事業名	81200 消防団運営事業費			予算	会計	1	一般会計	総合計画	基本分野	5	基盤・安全	市長公約	
					款	8	消防費		個別分野	9	消防		
					項	1	消防費		施策概要	3	消防団の充実		
					目	2	消防団費		根拠計画	消防計画			
担当課	消防本部 消防総務課		内線	2119									

1.事業の目的・概要(Plan)

目的	・火災をはじめとする災害等から地域住民の生命・財産を守るという消防団の任務が、迅速かつ的確に遂行できる体制づくりに努め、市域における災害等の被害軽減による市民の安全、安心の確保を図る。	概要	・消防団員の任免 ・報酬、手当等の支給 ・消防団行事等の企画、運営 ・消防団員への各種表彰の具申等 ・消防団施設・資器材等の維持管理 ・消防団員の入団促進、確保対策の取組み（H29～）
----	--	----	---

総合計画等 主な指標	H28実績	H29実績	H31目標

2.事業の実施結果等(Do)

(千円)

歳出事業費 (職員人件費を除く)		H28		H29		
		最終予算	決算 (a)	当初予算 (c)	最終予算	決算 (b)
		242,831	241,196	282,865	294,719	287,976
特定財源	国費 ()					
	県費 ()					
	その他(退職報償金、公務災害補償費、飛騨高山ふるさと基金繰入金)	25,400	28,926	56,600	56,600	71,872
一般財源		217,431	212,270	226,265	238,119	216,104
個票枝番	主な事業内容					
	消防団の運営に関する事業	242,831	241,196	281,695	293,549	287,000
◎ 1	消防団入団促進			1,170	1,170	976

※下段は主な事業内容を抜き出したものであり、計が歳出事業費に一致しない場合があります。

4.平成30年度予算編成(Action)

(千円)

H30		実施計画額	244,000
要求額	財務部査定額	市長査定額(d)	増減 (d)-(c)
259,087	252,629	252,629	△ 30,236
31,460	31,900	31,900	△ 24,700
227,627	220,729	220,729	△ 5,536
査定額	説明		
252,529	消防団員報酬等		
100	消防団入団促進ポスター作成ほか		

※入札に影響するため公開に適さないなど、記載省略(※)する場合があります。

3.平成28年度事業実績、評価等(Check)

事業実績	・火災予防、各種災害時における広報活動 ・花火大会等、各種イベントにおける警備活動 ・消防団組織等検討委員会を開催し、組織、団員定数、災害活動団員の採用等について協議し、組織の活性化を図る。 ・消防団応援事業所制度の加入事業所の拡大(登録数95件(累計)) ・消防団協力事業所表示制度の認定事業所の拡大(認定事業数170件(累計)) ・消防団員数 1,874人	
評価等	・消防団員の入団促進、確保の取組みについて方策を決定した。 ・必要な消防力の検証を行うとともに、班、分団の再編を着実に推進する必要がある。 ・消防団員を雇用する事業所等を支援することなどにより、団員の活動環境の改善を図り、団員確保に努める必要がある。	☒ 維持・改善 ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 廃止検討 ☐ H28完了 ☐ H29完了予定
次年度以降の考え方(担当課)	・組織の再編を進め、必要な消防力を明らかにし消防団員の適正数について検討していく。 ・消防団員の入団促進、確保の取組みから、課題を抽出し、団員確保を図る。 ・消防団協力事業所表示制度の認定数や消防団応援事業所の登録事業数の拡大を図り、消防団員の入団促進や活動環境の改善を図る。	

5.平成29年度事業実績、評価等(Check)

事業実績	・防火訪問等の火災予防活動を行った。 ・花火大会等、各種イベントにおける警備活動を行った。 ・消防団組織等検討委員会を開催し、分団、班の再編や消防団の行事のあり方を検討した。 ・消防団応援事業所制度の加入事業所の拡大に努めた。(登録数101件(累計)) ・消防団協力事業所表示制度の認定事業所の拡大に努めた。(認定事業数217件(累計)) ・入団促進DVDを作成した。 ・消防団活動風景のフォトコンテストを実施した。 ・条例改正を行った。(年齢50歳以上制限の撤廃) ・消防団活動に対する意識調査(アンケート)を実施した。	
評価等	・DVDの作成やフォトコンテスト等、団員や市民が参加しての取り組みができ、消防団員の入団促進、確保についての意識が高まった。 ・意識調査アンケートの結果を分析し、今後の消防団活動や入団促進の具体的な取り組みに繋げる必要がある。	☒ 維持・改善 ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 廃止検討 ☐ H29完了 ☐ H30完了予定
次年度以降の考え方(担当課)	・意識調査アンケートで課題となった消防団員のイメージアップ及び消防操法大会などの行事のあり方を検討し、団員確保に努める。 ・AT車の導入や安全装備品の整備など消防団員の待遇改善を図り、DVDを活用した団員確保に努める。	

施策の実施方針	・消防団への入団促進
担当課 予算要求 ポイント	・消防団員が安全、有効に活動できるための施設、車両、装備等の維持管理 ・消防団員の福利厚生事業 ・消防団の入団促進策の充実(入団促進ポスター作成等)

財務部 査定の 考え方	・精算内容を精査
市長査定 の考え方	・財務部査定のとおり

41_消防.xlsx_7

81200

主要事業個票(平成29年度決算)

事業名	81200 消防団運営事業費	区分	☐ H29新規	☐ H30新規	予算	会計	1	一般会計	担当課	消防本部 消防総務課
			☒ H29拡充	☐ H30拡充		款	8	消防費		
枝番・内容	1 消防団入団促進		☐ その他重要事業			項	1	消防費	内線	2119
			☐			目	2	消防団費	作成年月	H30.8

事業の目的・概要(Plan)

目的	・消防団員の入団促進を図り、消防団体制を充実させ、地域防災力の向上を図る。	概要	・消防団入団促進及び団員確保に向けた取組みを行う。 ・消防団活動映像作成、消防団フォトコンテスト、消防団員入団資格の見直し(条例改正)、消防団活動に対する意識調査の実施
----	---------------------------------------	----	---

[参考] H28決算(Do・Check) H29.8時点 (千円)

予算額	当初	0
	繰越	
	補正等	
	最終	0
決算額		0
対前年度増減額(決算)		0

[参考] H29当初予算(Action) H29.3時点 (千円)

予算額	当初	1,170
主な経費		
	・消防団活動映像作成	
	・消防団活動フォトコンテスト	
	・消防団意識調査(アンケート)	
対前年度増減額(当初予算)		1,170

※入札に影響するため公開に適さないなど、記載省略(※)する場合あり

H29決算(Do・Check) H30.8時点 (千円)

予算額	当初	1,170
	繰越	
	補正等	
	最終	1,170
決算額		976
対前年度増減額(決算)		976

H30当初予算(Action) H30.5時点 (千円)

予算額	当初	100
主な経費		
	・ポスター印刷	
対前年度増減額(当初予算)		△ 1,070

※入札に影響するため公開に適さないなど、記載省略(※)する場合あり

事業実績・評価等		
次年度以降 の考え方 (担当課)		☐ 維持・改善 ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 廃止検討 ☐ H28完了 ☐ H29完了予定

事業内容・スケジュール	
[事業内容] ・消防団活動映像作成 消防団活動、行事、訓練、町内会への協力活動、自主防災組織との関わり、その他消防団の地道な活動の映像を作成する。 完成後は、各種広報やイベント、消防署関係行事等において放映する。 ・消防団活動フォトコンテスト 消防団活動風景の写真コンテストを行い、活動のPR推進を図る。 ・消防団入団資格の見直し 入団資格である年齢50歳以上制限の撤廃(条例改正) ・消防団意識調査 消防団員や市民に対し、消防団活動に対する意識調査(アンケート)を実施し、その結果を分析し、今後の消防団活動や入団促進の取組みに繋げる。	
[スケジュール] ・消防団活動映像作成 6月～3月 委託契約、作成、完成納品 ・消防団フォトコンテスト 4月～3月 作品募集、審査会、作品展示 消防団員入団資格の見直し(条例改正) 平成29年3月議会において条例改正 ・消防団活動に対する意識調査 11月～3月 調査実施、集計、分析	

事業実績・評価等		
[事業実績] ・消防団活動映像作成 消防団入団促進PR映像(DVD)3月末に完成 (活用方法) 将来の消防団員として活躍する人材育成を目的に市内の小中学校への配付 市民への広報として市役所ロビーでの定期的な放映、高山市公式YouTubeによる配信 救命講習受講者への視聴 ・消防団活動フォトコンテスト 応募者数29名(作品数103点) 入賞作品12点(12名)を市内4箇所で展示 (高山市消防本部、高山市役所、パロー高山、ピュア高山) ・入団促進用ポケットティッシュの作成 入団促進用のポケットティッシュを2,000個を作成し、イベント時や来庁者等へ配布 ・消防団入団資格の見直し(年齢50歳以上制限の撤廃) 条例改正後、基本団員として50歳以上の方3名が入団 ・消防団員の意識調査(アンケート) 市民、団員を対象に意識調査を実施(11月～1月) 市民、団員から消防団行事に関する意見が多数あり、組織等検討委員会等にアンケート結果を提出し、今後の消防団行事のあり方を検討 [評価等] ・入団促進DVDの放映やフォトコンテストの展示を行うことで、消防団活動について広く市民に周知することができた。 ・消防団入団資格の見直しについて、50歳以上の方3名の入団実績があり、一定の効果があったが、今後も引き続き市民に対し周知していく必要がある。		
次年度以降 の考え方 (担当課)	・DVDを活用した団員の確保に努める。 ・組織等検討委員会における消防団行事のあり方の検討	☒ 維持・改善 ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 廃止検討 ☐ H29完了 ☐ H30完了予定

事業内容・スケジュール	
[事業内容] ・消防団入団促進ポスターの作成 平成29年度のフォトコンテスト優秀作品を活用し、入団促進ポスターを作成、市内各所に掲示 ・平成29年度実施の消防団意識調査結果に基づく団活動や運営等の改善、入団促進・確保策の検討	
[スケジュール] ・消防団入団促進ポスター作成 4月～2月 デザイン等設計、作成、納品、掲示 ・消防団意識調査結果に基づく団活動や運営等の改善、入団促進・確保策の検討 4月～9月 調査結果から課題を抽出し、団との協議、事業案を作成	

事業シート(平成29年度決算)

事業名	81300 消防施設整備事業費			予算	会計	1	一般会計	総合計画	基本分野	5	基盤・安全	市長公約	
					款	8	消防費		個別分野	9	消防		
					項	1	消防費		施策概要	2	消防体制の充実		
					目	3	消防施設費		根拠計画	消防計画・消防団車庫整備計画			
担当課	消防本部 消防総務課		内線	2119									

1.事業の目的・概要(Plan)

目的	・老朽化した消防施設を整備し、各種災害に対する消防力の強化と充実を行い、市民の安全・安心の確保を図る。	概要	・消防団車庫を計画的に整備する。 ・消防署施設を計画的に修繕整備する。
----	---	----	--

総合計画等 主な指標	H28実績	H29実績	H31目標

2.事業の実施結果等(Do)

(千円)

歳出事業費 (職員人件費を除く)		H28		H29		
		最終予算	決算 (a)	当初予算 (c)	最終予算	決算 (b)
		7,000	6,957	7,000	6,935	6,845
特定財源	国費 ()					
	県費 ()					
	その他 ()					
一般財源		7,000	6,957	7,000	6,935	6,845
個票枝番	主な事業内容					
	団車庫改修・撤去等	4,000	4,581	7,000	6,935	6,845
	消防無線(アナログ)撤去	3,000	2,376			

※下段は主な事業内容を抜き出したものであり、計が歳出事業費に一致しない場合があります。

4.平成30年度予算編成(Action)

(千円)

H30		実施計画額	8,000
要求額	財務部査定額	市長査定額(d)	増減 (d)-(c)
14,859	7,000	7,000	0
14,859	7,000	7,000	0
査定額	説明		
7,000			

※入札に影響するため公開に適さないなど、記載省略(※)する場合があります。

3.平成28年度事業実績、評価等(Check)

事業実績	・消防団車庫整備・解体5か所(莊川支団(上野々俣)、一之宮支団(寺)、国府支団(宮地、鶴巢)、高山支団(陣屋)) ・消防団車庫整備計画の一部見直し
評価等	・消防団車庫整備については、分団・班の再編状況も踏まえつつ、消防団車両とともに、計画的かつ効率的に進める必要がある。 ・建築年度だけでなく、現地調査により破損・老朽化状況を把握し、修繕・長寿命化を中心とした整備を進める必要がある。 ・他施設との併用等を図り、コスト縮減に向けて、地元消防団、町内との協議及び調整を図る必要がある。
次年度以降の考え方(担当課)	☒ 維持・改善 ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 廃止検討 ☐ H28完了 ☐ H29完了予定 ・消防団車庫2か所の整備(久々野支団(橋場)、一之宮支団(駅前)) ・整備方針に基づき計画的に施設の整備を進める必要がある。

5.平成29年度事業実績、評価等(Check)

事業実績	・消防団車庫整備・解体2か所を行った。(一之宮支団(駅前)、久々野支団(橋場)) ・消防団車庫整備計画の一部の見直しを行った。
評価等	・消防団車庫整備については、分団・班の再編状況も踏まえつつ、消防団車両とともに、計画的かつ効率的に進める必要がある。 ・建築年度だけでなく、現地調査により破損・老朽化状況を把握し、修繕・長寿命化を中心とした整備を進める必要がある。 ・他施設との併用等を図り、コスト縮減に向けて、地元消防団、町内との協議及び調整を図る必要がある。
次年度以降の考え方(担当課)	☒ 維持・改善 ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 廃止検討 ☐ H29完了 ☐ H30完了予定 ・消防団車庫解体・屋根塗装3か所(久々野支団(坂屋)、上宝支団(一重ヶ根・見座)) ・整備方針に基づき計画的に施設の整備を進める必要がある。

施策の実施方針	
担当課 予算要求 ポイント	・老朽化した消防団車庫の整備 ・高山消防署にある非常用照明設備の改修

財務部 査定の 考え方	・積算内容を精査
市長査定 の考え方	・財務部査定のとおり

事業シート(平成29年度決算)

事業名	81310 消防車両整備事業費	予算	会計	1	一般会計	総合計画	基本分野	5	基盤・安全	市長公約	
			款	8	消防費		個別分野	9	消防		
			項	1	消防費		施策概要	2	消防体制の充実		
			目	3	消防施設費		根拠計画	消防計画・消防車両整備計画・消防団車両整備計画			
担当課	消防本部 消防総務課・警防課・救急課	内線	2119								

1.事業の目的・概要(Plan)

目的	・消防車両(署・団)を適正に配置し、老朽化した車両を更新整備することにより消防活動の安全と災害時の対応能力を向上させ、市民の安全・安心を確保する。	概要	・消防車両整備計画、消防団車両整備計画による、計画的な更新整備
----	---	----	---------------------------------

総合計画等 主な指標	H28実績	H29実績	H31目標

2.事業の実施結果等(Do)

(千円)

歳出事業費 (職員人件費を除く)		H28		H29		
		最終予算	決算 (a)	当初予算 (c)	最終予算	決算 (b)
		69,408	68,565	111,000	110,366	110,334
特定財源	国費 (消防施設等整備事業費1/2)	0	0	12,400	12,400	12,275
	県費 ()					
	その他(地方債、白川村受託事業収入)	36,900	35,557	18,000	18,000	18,000
一般財源		32,508	33,008	80,600	79,966	80,059
個票枝番	主な事業内容					
	高規格救急自動車更新	20,500	19,829	20,500	20,160	20,241
	救急車積載用高度救命資器材更新	9,908	9,828	10,500	10,206	10,206
	消防団車両更新	39,000	38,908	49,000	49,000	48,891
	消防署車両更新					
	はしご車分解整備修繕			31,000	31,000	30,996

※下段は主な事業内容を抜き出したものであり、計が歳出事業費に一致しない場合があります。

4.平成30年度予算編成(Action)

(千円)

H30		実施計画額	115,000
要求額	財務部査定額	市長査定額(d)	増減 (d)-(c)
151,906	124,000	124,000	13,000
10,698	10,698	10,698	△ 1,702
0	34,000	34,000	16,000
141,208	79,302	79,302	△ 1,298
査定額	説明		
※	高規格救急車1台		
10,500	高規格救急車積載の高度救命処置資器材一式		
※	消防団ポンプ付積載車6台		
※	消防ポンプ車1台		

※入札に影響するため公開に適さないなど、記載省略(※)する場合があります。

3.平成28年度事業実績、評価等(Check)

事業実績	・消防団車両については、高山支団(空町班)、丹生川支団(白井班)に消防ポンプ車CDーⅠ型2台を更新配備し、清見支団(大原班)の可搬積載車1台を更新配備した。 ・高規格救急自動車を1台更新し、白川出張所に配備した。
評価等	・計画的に消防車両等の更新を進め必要な消防車両等を適切に維持管理していかなければならない。 ・老朽化した車両を更新整備することにより、消防活動の安全と災害時の対応能力を向上させることができた。
次年度以降の考え方(担当課)	☒ 維持・改善 ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 廃止検討 ☐ H28完了 ☐ H29完了予定 ・車両整備計画に基づき、計画的な更新整備を図り適正に維持管理する。 ・消防団車両整備については、分団、班の再編成状況を踏まえ、消防団車庫とともに、計画的かつ効率的に進める必要がある。

5.平成29年度事業実績、評価等(Check)

事業実績	・消防団車両については、高山支団(天満班)、一之宮支団(山下班)に消防ポンプ車CDーⅠ型2台を更新配備し、朝日支団(浅井班)、国府支団(三川班)の可搬積載車2台を更新配備した。 ・高規格救急自動車を1台更新し、荏川出張所に配備した。
評価等	・計画的に消防車両等の更新を進め、必要な消防車両等を適切に維持管理していかなければならない。 ・老朽化した車両を更新整備することにより、消防活動の安全と災害時の対応能力を向上させることができた。
次年度以降の考え方(担当課)	☒ 維持・改善 ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 廃止検討 ☐ H29完了 ☐ H30完了予定 ・車両整備計画に基づき、計画的な更新整備を図り適正に維持管理する。 ・消防団車両整備については、分団、班の再編成状況を踏まえ、消防団車庫とともに、計画的かつ効率的に進める必要がある。

施策の実施方針	
担当課 予算要求 ポイント	・高規格救急車・ポンプ車の更新(高山消防署) ・ポンプ付積載車の更新(消防団)

財務部 査定の 考え方	・積算内容を精査
市長査定 の考え方	・財務部査定のとおり

事業シート(平成29年度決算)

事業名	81320 消防水利施設整備事業費			予算	会計	1	一般会計	総合計画	基本分野	5	基盤・安全	市長公約	
					款	8	消防費		個別分野	9	消防		
					項	1	消防費		施策概要	2	消防体制の充実		
					目	3	消防施設費		根拠計画	消防計画、耐震性貯水槽整備計画			
担当課	高山消防署 防災課	内線	2117										

1.事業の目的・概要(Plan)

目的	・地震等の災害発生時における消防水利の確保と、避難所等における生活雑用水の確保を目的に耐震性の貯水槽を整備し、消防水利の充実と地域の防災力強化を図る。 ・既存の消防水利を適切に維持管理することで、効果的な消防活動ができる環境を維持し被害を軽減する。	概要	・耐震性貯水槽整備計画に基づき、耐震性貯水槽を整備する。 ・損傷、老朽化が見られる消防水利の改修、修繕 ・防火水槽の清掃(土砂除去等)による環境改善と水量維持)
----	---	----	--

総合計画等 主な指標	H28実績	H29実績	H31目標
耐震性貯水槽整備	2基	2基	2基

2.事業の実施結果等(Do)

(千円)

歳出事業費 (職員人件費を除く)		H28		H29		
		最終予算	決算 (a)	当初予算 (c)	最終予算	決算 (b)
		29,000	28,156	28,020	28,719	28,618
特定財源	国費 (消防防災施設等整備費1/2)	5,386	5,365	5,386	5,386	5,386
	県費 ()					
	その他(地方債、コミュニティ助成雑入)	0	0	0	2,000	2,000
一般財源		23,614	22,791	22,634	21,333	21,232
個票枝番	主な事業内容					
	耐震性貯水槽更新、防火水槽解体	17,000	16,306	16,000	16,065	16,065
	自主防災組織小型動力ポンプ等購入	0	0	1,900	2,534	2,521
	水利施設の維持管理等	12,000	11,850	10,120	10,120	10,032

※下段は主な事業内容を抜き出したものであり、計が歳出事業費に一致しない場合があります。

4.平成30年度予算編成(Action)

(千円)

H30		実施計画額	30,000
要求額	財務部査定額	市長査定額(d)	増減 (d)-(c)
47,324	35,300	35,300	7,280
5,386	5,386	5,386	0
0	12,000	12,000	12,000
41,938	17,914	17,914	△ 4,720
査定額	説明		
※	耐震性貯水槽設置2基		
※	小型動力ポンプ購入2基		
15,300			

※入札に影響するため公開に適さないなど、記載省略(※)する場合があります。

3.平成28年度事業実績、評価等(Check)

事業実績	・耐震性貯水槽整備計画に基づく既存防火水槽から耐震性貯水槽への更新(2基 高山、一之宮) ・防火水槽の漏水、水槽本体及びフェンス等の破損を修繕(4基) ・防火水槽の清掃(土砂除去等)による環境改善と水量維持(2基)
評価等	・非耐震性の防火水槽を耐震性貯水槽に更新することで、消防体制の充実と地域の防災力強化を図ることができた。 ・消防水利を適正に維持管理することで、災害による被害を軽減することができた。
次年度以降の考え方(担当課)	☒ 維持・改善 ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 廃止検討 ☐ H28完了 ☐ H29完了予定 ・耐震性貯水槽整備計画に基づき、引き続き老朽化した防火水槽を耐震性貯水槽に更新し、震災時にも使用可能な消防水利を確保する。 ・コスト縮減を図りながら、消防水利を適正に維持管理する。

5.平成29年度事業実績、評価等(Check)

事業実績	・耐震性貯水槽整備計画に基づく既存防火水槽から耐震性貯水槽への更新を行った。(2基 久々野、国府) ・防火水槽の漏水、水槽本体及びフェンス等の破損を修繕した。(3基) ・防火水槽の清掃を行った。(土砂除去等)による環境改善と水量維持(1基)
評価等	・非耐震性の防火水槽を耐震性貯水槽に更新することで、消防体制の充実と地域の防災力強化を図ることができた。 ・消防水利を適正に維持管理することで、災害による被害を軽減することができた。
次年度以降の考え方(担当課)	☒ 維持・改善 ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 廃止検討 ☐ H29完了 ☐ H30完了予定 ・耐震性貯水槽整備計画に基づき、引き続き老朽化した防火水槽を耐震性貯水槽に更新し、震災時にも使用可能な消防水利を確保する。 ・コスト縮減を図りながら、消防水利の適正な維持管理を実施する。

施策の実施方針	
担当課 予算要求 ポイント	・計画的な耐震性貯水槽の整備 ・消火栓の機能保全と適正配置
財務部 査定の 考え方	・積算内容を精査
市長査定 の考え方	・財務部査定のとおり

事業名	81330 消防資器材整備事業費	予算	会計	1	一般会計	総合計画	基本分野	5	基盤・安全	市長公約	
			款	8	消防費		個別分野	9	消防		
			項	1	消防費		施策概要	2	消防体制の充実		
			目	3	消防施設費		根拠計画	消防計画・消防資器材整備計画			
担当課	消防本部 消防総務課・警防課・防災課・救急課	内線	2119								

1.事業の目的・概要(Plan)

目的	・消防資器材及び初期消火資器材については、経年劣化した資器材の更新を適正に行い、迅速かつ的確な消防活動を実施し、市民生活の安全を確保する。 ・自主防災組織の育成、組織の強化を図る。	概要	・計画的に資器材を整備し、有効活用することで、総合的な消防力の向上を図る。 ・初期消火資器材の更新及び修繕 ・自主防災組織の訓練指導
----	---	----	--

総合計画等 主な指標	H28実績	H29実績	H31目標
「消防・救急体制が整っている」と感じている市民の割合	85.7%	83.9%	↗

2.事業の実施結果等(Do)

(千円)

歳出事業費 (職員人件費を除く)		H28		H29		
		最終予算	決算 (a)	当初予算 (c)	最終予算	決算 (b)
		27,792	27,784	18,200	18,200	17,444
特定財源	国費 ()					
	県費 ()					
	その他(白川村受託事業収入)	5,892	7,142	0	0	0
一般財源		21,900	20,642	18,200	18,200	17,444
個票枝番	主な事業内容					
	消防資器材整備に関する事業	9,990	10,308	12,300	12,300	13,155
	初期消火資器材格納箱の色彩変更					
	消防団用防火衣、雨衣の購入	17,800	17,474			
◎ 1	消防団装備品(無線機ほか)			5,900	5,900	4,289

※下段は主な事業内容を抜き出したものであり、計が歳出事業費に一致しない場合があります。

4.平成30年度予算編成(Action)

(千円)

H30		実施計画額	7,000
要求額	財務部査定額	市長査定額(d)	増減 (d)-(c)
32,886	23,100	23,100	4,900
1,610	0	0	0
31,276	23,100	23,100	4,900
査定額	説明		
21,600			
1,500	74基		

※入れに影響するため公開に適さないなど、記載省略(※)する場合があります。

3.平成28年度事業実績、評価等(Check)

事業実績	・常備消防上下式防火衣8着を更新整備した。 ・空気呼吸器用ボンベ19本を更新整備した。 ・初期消火資器材について、格納箱16基、ホース62本を更新整備した。 ・消防ホース(常備、団)77本を更新整備した。 ・消防団員用防火衣220着、団員の雨衣1,820着を整備した。 ・消防団分団旗、分水器等を整備した。
評価等	・消防資器材を計画的に更新し、消防活動の安全を確保し、現場対応力の充実強化が図られた。 ・老朽化した初期消火資器材を更新し、自主防災組織の活動の安全を確保することに繋がった。 ・消防団員への安全装備品の整備により、団員の安全管理及び現場対応力の強化が図られた。 ・消防団装備品については、経年劣化等による資器材等の更新により、活動環境の向上を図ることができた。
次年度以降の考え方(担当課)	・更新整備した資器材を適切に配置し、有効活用することにより総合的な消防力の向上を図る。 ・老朽化した初期消火資器材の適切な更新を進め、自主防災組織による活動の安全を確保する。 ・消防団の安全装備品については、団からの要望も踏まえ、適切な整備を図る。 ・消防団装備品(資器材)については、火災だけではなく地震、風水害等のあらゆる災害に対応可能な資器材の整備を検討する必要がある。

5.平成29年度事業実績、評価等(Check)

事業実績	・常備消防上下式防火衣8着を更新整備した。 ・空気呼吸器用ボンベ37本を更新整備した。 ・初期消火資器材について、格納箱17基、ホース59本を更新整備した。 ・消防ホース(常備、団)112本を更新整備した。 ・消防団簡易デジタル無線機80台を購入した。 ・消防団ヘッドライト357個を購入した。 ・消防団分団旗、吸管を整備した。
評価等	・消防資器材を計画的に更新し、消防活動の安全を確保し、現場対応力の充実強化が図られた。 ・老朽化した初期消火資器材を更新し、自主防災組織の活動の安全を確保することに繋がった。 ・消防団員への安全装備品の整備により、団員の安全管理及び現場対応力の強化が図られた。 ・消防団装備品については、経年劣化等による資器材等の更新により、活動環境の向上を図ることができた。
次年度以降の考え方(担当課)	・更新整備した資器材を適切に配置し、有効活用することにより総合的な消防力の向上を図る。 ・老朽化した初期消火資器材の適切な更新を進め、自主防災組織による活動の安全を確保する。 ・消防団の安全装備品については、団からの要望も踏まえ、適切な整備を図る。 ・消防団装備品(資器材)については、火災だけではなく地震、風水害等のあらゆる災害に対応可能な資器材の整備を検討する必要がある。

施策の実施方針	・良好な景観の創出
担当課 予算要求 ポイント	・消防資器材の計画的な整備による消防防災体制の向上

財務部 査定の 考え方	・積算内容を精査
市長査定 の考え方	・財務部査定のとおり

主要事業個票(平成29年度決算)

事業名	81330 消防資器材整備事業費	区分	☐ H29新規	☐ H30新規	予算	会計	1	一般会計	担当課	消防本部 消防総務課
			☒ H29拡充	☐ H30拡充		款	8	消防費		
枝番・内容	1 消防団装備品(無線機ほか)		☐ その他重要事業			項	1	消防費	内線	2119
			☐			目	3	消防施設費	作成年月	H30.8

事業の目的・概要(Plan)

目的	・消防資器材及び初期消火資器材については、経年劣化した資器材の更新を適正に行い、迅速かつ的確な消防活動を実施し、市民生活の安全を確保する。	概要	・消防団活動において市民や消防団員の安全を確保するために必要な資器材を重点的に整備する。 ・計画的に資器材を整備し、有効活用することで、総合的な消防力の向上を図る。
----	---	----	---

[参考] H28決算(Do・Check) H29.8時点 (千円)

予算額	当初	0
	繰越	
	補正等	
	最終	0
決算額		0
対前年度増減額(決算)		0

事業実績・評価等		
次年度以降 の考え方 (担当課)		☐ 維持・改善 ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 廃止検討 ☐ H28完了 ☐ H29完了予定

[参考] H29当初予算(Action) H29.3時点 (千円)

予算額	当初	5,900
主な経費		
	・消防団簡易デジタル無線機	4,800千円
	・消防団ヘッドライト	536千円
	・分団旗・吸管等	564千円
対前年度増減額(当初予算)		5,900

※入札に影響するため公開に適さないなど、記載省略(※)する場合あり

事業内容、スケジュール	
[事業内容] ・消防団簡易デジタル無線機の購入 消防団員間の連携や情報共有及び団活動で最も重要である安全を確保するために無線機を増設する。 消防団簡易デジタル無線機80台を購入し、各支団へ追加配備する。 ・消防団ヘッドライトの購入 団員から強い要望があり、夜間活動に不可欠なライトを整備する。 119台の車両に3個積載(357個購入) ・分団旗、組立て水槽の購入 高山支団、清見支団、朝日支団、上宝支団の分団旗計11旗を整備する。 組立て水槽など消火活動に必要な資器材を配備する。	
[スケジュール] ・消防団簡易デジタル無線機購入 4月～6月 契約、納品、支団へ配備 ・消防団ヘッドライト購入 5月～7月 契約、納品、支団へ配備	

H29決算(Do・Check) H30.8時点 (千円)

予算額	当初	5,900
	繰越	
	補正等	
	最終	5,900
決算額		4,289
対前年度増減額(決算)		4,289

事業実績・評価等		
[事業実績] ・消防団簡易デジタル無線機 消防団簡易デジタル無線機80台を購入し、各支団へ追加配備した。 ・消防団ヘッドライト 消防団ヘッドライトを357個購入し、119台の団車両へ1台当たり3個配備した。 ・消防団分団旗、消火活動用資器材 分団旗を各支団(高山、清見、朝日、高根)に11旗配備し、全ての分団への配備が完了した。 山林火災対応のため、組立て水槽を荘川支団に配備した。 現場本部用に屋外用アンテナを各支所へ配備した。 [評価等] ・簡易デジタル無線機や屋外用アンテナを購入し配備したことで、消防団活動における情報伝達の円滑化が図れた。 ・分団旗を購入し配備したことで、出初式や操法大会等の消防団行事において、団員の一体感と士気の高揚が図れた。 ・ヘッドライトや消火活動用資器材を購入し配備したことで、災害時や特に夜間での活動がしやすい環境の整備が図れた。		
次年度以降 の考え方 (担当課)	・消防団活動時の安全管理に必要な資器材を重点に引き続き資器材の整備を行う。	☒ 維持・改善 ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 廃止検討 ☐ H29完了 ☐ H30完了予定

H30当初予算(Action) H30.5時点 (千円)

予算額	当初	0
主な経費		
対前年度増減額(当初予算)		△ 5,900

※入札に影響するため公開に適さないなど、記載省略(※)する場合あり

事業内容、スケジュール	
[事業内容]	
[スケジュール]	